



森林ふれあい情報

平成25年3月
第26号

中部森林管理局木曽森林環境保全ふれあいセンター
〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島1250-7
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

木曽青峰高校生より木製ベンチ寄贈

平成25年1月16日、木曽町の木曽青峰高校森林環境科3年生が、木曽町の城山国有林（城山史跡の森）をフィールドとして森林整備等の活動を行っている城山史跡の森倶楽部へ木製ベンチ10脚の贈呈式を行いました。

このベンチは、城山国有林に隣接する同校演習林の間伐材を利用したもので、昨年10月から林産加工の実習で制作に取り組んでいたもので、昨年7月に鈴木局長から、「城山国有林に隣接する木曽青峰高校の生徒に何か工作物を作ってもらい、国有林に置くことができれば地域への貢献と生徒の地元に対する思い出になる。」という話が発端となり、同校の先生方も是非やってみたいとのことから、実現に至ったものです。

式典で同倶楽部の樋口会長は、「苦勞して作ったベンチを大切に使いたい。」と謝辞を述べ、城山史跡の森の散策コースの、地元住民や観光客が多く訪れ、木曽駒ヶ岳や木曽町福島町の町並みを見下ろすことができる紅葉ヶ丘等に、雪解け後の4月にベンチを設置するとのことでした。



木曽青峰高校生からベンチを贈呈

第16回森林と緑をはぐくむ集い

平成25年2月23日、木曽町の県木曽地方事務所講堂において、木曽地域の林業関係者や一般住民など約150人が参加して、地域の多様で健全な森林を次世代に継承していくことの大切さを育むため、「第16回森林と緑をはぐくむ集い」が開催されました。

集いでは、元京都大学助教授の赤井龍男農学博士による『従自然的な森づくりー木曽ヒノキの天然更新を主にー』と題して、木曽森林管理署管内の三浦実験林において木曽ヒノキの天然更新試験が開始されてからの約50年の記録、経過を講演されました。この三浦実験林の成果は、「木曽ヒノキ天然施業の源」であると高い評価がされ、参加した方々からは厳しい環境下での天然更新技術や山作りの方法など多くの質問が出されるとともに、国有林の中で進められてきた努力に認識を深められたようでした。



赤井龍男農学博士による講演会の様子
成林した木曽ヒノキ天然更新地の状態（2012）

城山史跡の森自然再生の総括

城山国有林の「城山史跡の森」には、ササユリをはじめとしてヤマグルマなどの絶滅危惧種に指定された貴重な植物にも出会える山歩きの場として、近隣の住民にも親しまれています。

当センターもこの環境を守るべく「城山史跡の森倶楽部」と連携しながら植物の保護や歩道の整備、指導等を行っています。

最近の活動を紹介しますと、

ササユリが昨年引き続いて1箇所1株、球根を掘り取られると言う事件がありました。

動物によると思われるため、どのような動物がこの辺りを徘徊しているのかを調べるとともに、人的な盗掘もけん制するため、センサーカメラを設置して監視を行いました。

この結果、原因が判明することはありませんでしたが、その後の被害もなく雪の季節を迎えることができ、これもひとつの成果かと思うこのごろです。



センサーカメラを設置

カザグルマは、西洋で改良されクレマチスと言ひ、聞いたことがある方は多いかもしれません。つる性の多年草で林縁部の日当たりのいい場所を好み、木曾地域では5月下旬から6月上旬に2週間程度にわたり白や淡紫色の大きめで可憐な花を多数つけます。

本年度は晩秋に「城山史跡の森倶楽部」会員の皆さんと共に、自生地に繁茂するクズを全面的に刈り払い、根株を薬剤処理して日当たりと場所の確保を行いました。また支柱を新しいものに替えるために、会員の所有山林から竹を分けていただき、今春の成長が始まるまでにカザグルマを傷つけないよう注意し、取り替える予定です。



カザグルマの可憐な花癒されます

これらの花々がこれからも倶楽部を通じ町の皆さんから愛され、守られながら末永く咲き続けることを願います。



周辺地の除草



竹を採取(元畑も竹林! 深刻な問題です)



提供いただいた竹で支柱を作成

名称の変更

当センターは、平成25年4月1日より国有林野事業の一般会計化に伴い、旧名称「木曾森林環境保全ふれあいセンター」から、新名称「木曾森林ふれあい推進センター」に変更となります。

なお、住所、電話番号、FAX番号は、変更ありません。

引き続き、よろしくお願いいたします。